

יִשְׂרָאֵל の語源的意味

—ヤコブの改名の秘密—

1. 聖書の出典 —創世記

●聖書ではじめて「イスラエル」という語彙が登場するのは、創世記 32 章 29 節です。

(1) 【新改訳改訂第3版】

その人は言った。「あなたの名は、もうヤコブとは呼ばれない。イスラエルだ。あなたは神と戦い、人と戦って、勝ったからだ。」

(2) 【新共同訳】

その人は言った。「お前の名はもうヤコブではなく、これからはイスラエルと呼ばれる。お前は神と人と闘って勝ったからだ。」

(3) 【口語訳】

その人は言った、「あなたはもはや名をヤコブと言わず、イスラエルと言いなさい。あなたが神と人との力を争って勝ったからです。」

2. 語源的意味

●「イスラエル」(יִשְׂרָאֵל)は、二つの語彙が組み合わさっています。一つは「エール」で「神」を意味することが明確です。もうひとつは「שר」 という三つの文字で表わされる語彙です。後者の語彙は、「スイン」と「レーシュ」の שר が親語根(parent roots)で、「ヨード」の י は子語根(child root)と考えることができます。

●ちなみに、ヘブル語の子語根(child root)は、「ヨード」(י)の他に、「アーレフ」(א)、「ヘー」(ה)、「ヴ」(ו)、「ヌーン」(נ)、「ヌーン・ソフィート」(ן)、および、子音の最後の文字を二重に重ねた文字がその対象となります。様々な可能性から導き出される語彙の可能性は、ここでは以下の四つのです。



- (1) 動詞の「サーラー」(קָרַח)。この動詞の意味は「争う、争って勝つ」という意味で、ヘブル語聖書では3回(創世記 32:29、ホセア 12:3, 4)

3 節 (新共同訳では4 節)

【新改訳改訂第3版】

彼は母の胎にいたとき、兄弟を押しのけた。彼はその力で神と争った。

【新共同訳】

ヤコブは母の胎にいたときから／兄のかかとをつかみ／力を尽くして神と争った。

4 節 (新共同訳では5 節)

【新改訳改訂第3版】

彼は御使いと格闘して勝ったが、泣いて、これに願った。

【新共同訳】

神の使いと争って勝ち／泣いて恵みを乞うた。

- (2) 動詞の「サーラル」(קָרַח)。この動詞の意味は「支配する」「君臨する」という意味で、ヘブル語聖書では7回使われています(民 16:13, 13、士師 9:22、エス 1:22、箴 8:16、イザヤ 32:1、ホセア 8:4)
- (3) 動詞の「スール」(קָרַח)。この動詞の意味は「わざわざ来る」という意味。ヘブル語聖書ではI 歴代 20:3、ホセア 9:12 の2回のみ。「争って勝利する」「支配する」ということは、その均衡が破られるならば、「わざわざ来る」と考えられます。
- (4) 「イスラエル」の「イスラ」の部分である קָרַח は、動詞の「サーラー」(קָרַח)とも、あるいは動詞の「サーラル」(קָרַח)とも考えられます。

●このように、「イスラエル」の語源的意味は、親語根である קָרַח と密接なつながりを持ちながら、「神と人と争って勝利する」という意味と、「神が支配する」という意味と、「わざわざ来る」という三つの意味合いが含まれています。

3. イスラエルの雅語としての「エシュルン」(יְשׁוּרֵן)

●ちなみに、イスラエルはヤコブの別称ですが、その「イスラエル」には「エシュルン」という雅語があります。正確には「イエシュルーン」(יְשׁוּרֵן)という固有名詞ですが、このことばの基になっているのは、動詞の「ヤーシャル」(יָשַׁר)で、真っ直ぐにする、正しく考える、物事を正すといった意味です。形容詞は「ヤーシャル」(יָשָׁר)で、「正しい、upright」という意味。名詞は「ヨーシエル」(יֹשֵׁר)で「まっすぐなこと、率直」という意味です。

●「エシュルン」は、申命記 32 章 15 節、33 章 5 節、33 章 26 節の三箇所に登場します。他にはイザヤ書 44 章 2 節にあります。そこでは 44 章 1 節に語られたことが 2 節では次のように言い換えられています。

44:1 「聞け、わたしのしもべヤコブ、わたしの選んだイスラエルよ。」

44:2 「恐れるな。わたしのしもべヤコブ、わたしの選んだエシュルンよ。」

●新聖書辞典(いのちのことば社)によれば、エシュルンの「この呼称は、イスラエルの民が正しいからではなく、彼らを贖い、召された神が正義であり、彼らを正しい道へ導かれるからである。またこの呼称により、罪を犯し、墮落しやすい民に神の民としての自覚を与えようとしているのである。」と説明されています。